

行軍又ハ登山用、鼻紐ヲ以テ背又ハ腰部ニ結着シ振動ニ耐

得ル特種ノ容器ナリ

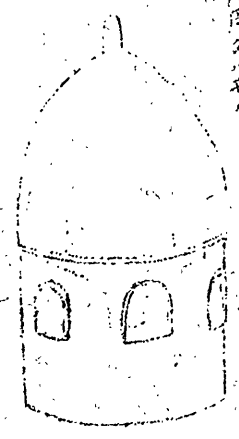
石、外乗馬隊用トシテハ特ニ護護紐ニテ平均ニ燭体ヲ釣り以テ激烈ナル振動ニ耐ヘ得ル如ク製作スルモノアリ

飲水器、燭室用、モト上蓋送(携帶)用、モトアリ燭室内ニテ使用

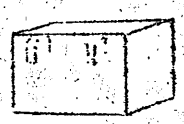
スルモノハ蓋又ハ其他ノ塵埃ノ混入ヲ防グタメ夫々適當ナル型ノモノヲ用ニ輸送(携帶)用、モト別ニ輕便ナル小型ノモノヲ使

用ス

燭室内ニ使用スルモノ



輸送(携帶)又ハ特別ノ場合、泉房ニ於テ使用スルモノ



給餌器 平底ノ淺キ器ニテ給餌ノ際ヤ用ヒテ飼糧ニ鳩糞

塵衣等ノ附着ヲ防キ且ツ濕氣ヲ避ク

鳩水浴槽 金属製天寶鏡型ノ盥ニシテ鳩ノ水浴ニ使用スルモノナリ

大小ニ様アリ

鳩足輪固着器 金属製鋏型ノモノニシテ平型足輪ヲ嵌入スルニ用ユ

足輪記號器 数字型文字型錨型等ト併用シ足輪ニ所要ノ記

號ヲ刻印スルニ用ユ

捕鳩網



型ノ網ニシテ鳩室外ニアル鳩ヲ捕フルニ便利ナリ

水 罐

金属製小型タンクニシテ水源ニ遠キ鳩舎ニ於テ一時清水

ヲ貯フルニ用ユ

節 箕

何レモ飼糧ヲ精選スルニ用フ

振 旗

舎外飛翔中鳩舎附近ニ掲テ置キ且ノ飛翔中鳩舎屋上

ニ下リ来レル鳩ヲ追ヒ立ツルニ用フ普通晝間ハ赤色夜間ハ

白色、旗ヲ用フ

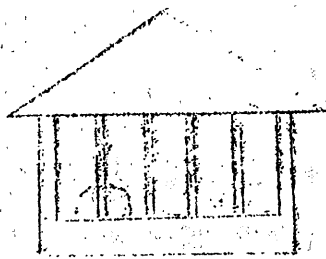
消毒器：場室内外、消毒ニ使用ス

糞糞採取：共ニ場室掃除用具ナリ

土温箱：土温ヲ入レ場室内ニ置ケルニシテ糞ヲ防グタ、屋根型

ヲ付シアリ

土温箱



(四) 消耗品ノ部

鳩糞：石膏、素焼木材等ニテ製成セル深皿様ノモノニシテ、兼房

内ニ備ヘ置ケルモノトス

鳩足輪：所屬番號等ヲ刻印セルモノト單ニ識別用ノ着色セルモノ

トアリ

信書筒……重量約一瓦アルミニウム製圓筒形蓋及脚帶付ノ管ニシテ

中ニ信書（三通ヲ收納シ得）ヲ收メテ鳩ノ脚ニ装着スルモノナリ

信書囊……重量約二瓦護謄引絹布ニテ作製シ多数ノ通信文又

ハ寫真「フィルム」等ヲ輸送スル時ニヤヲ使用シ鳩ノ胸部ニ

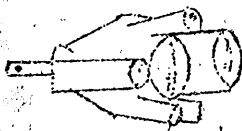
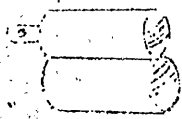
装着スルモノナリ

鳩 笛……竹又ハ輕金属ニテ作製セル筒型（一二三四本立等種々アリ）ノ

特種ノ笛ニシテ鳩ノ尾羽ニ直立ニ装着シ鳩ノ飛翔中翼振

ノ音聲ヲ發セシメ以テ害鳥ノ襲來ヲ防クニ用ヒラル、コ

トアリ（竹材ヲ用ヒ考クハ支那製ナリ）



小 印 鳩 翼羽ニ記號ヲ捺印スルニ用フ

二 作業服 (消耗品)

過室作業ニ従事スルモノニ常ニ一定ノ服裝ヲサシムルトキハ鳩翼羽ヲシテ自己ノ取扱者ヲ認識セシムルニ易ク人ト鳩トノ親和ヲ得ルニ層便利ナリ作業服ハ主トシテ此ノ目的ニ使用スルモノニシテ且ツ衛生上ノ見地ヨリ白色ノ布地ヲ用ユ

作業服ハ地質ヲ綾木綿トシテニ黒色横線ニ條ヲ劃シタル帽子ヲ附ス

三 諸用紙 (消耗品)

軍鳩通信用紙……本紙及取外シ自在ノ厚表紙ヨリ成リ本紙ハ約五十

枚ヲ以テ一部トシ品質優良ナル薄キ白本紙ニ淡ク蠟引シテ

濕氣ニ耐ヘシタルモノニシテ甲式乙式ノ二様アリ共ニ通信文

(又略圖表等)ヲ記載スルニ用ユルモノナリ

鳩舎諸用紙……鳩舎日誌、軍鳩經歷簿、鳩名簿、仔鳩名簿、産卵

孵化簿、交配記録、配偶鳩並同仔鳩一覽表、軍鳩現狀日

報、軍鳩月計報告（第一表、第二表）等、別あり

放鳩成績用紙……放鳩成績表、軍鳩通信記録、年度各線鳩訓練成績一覽表等あり

第六章 訓練

第一節 馴致

新メニ鳩ヲ收容シタル場合其ノ鳩ヲシテ鳩舎並ニ附近ノ地物ニ慣レシムルタメニ施ストコロノ訓練ヲ特ニ馴致ト云フ

馴致ハ鳩ヲ移殖シタル後直ニ行フモノニシテ外界ヲ觀察シ得ル鳩舎ニ閉置シ空腹ヲ利用スルコトニ依リ目的ヲ達シ得ルモ鳩舎ノ構造施設適否鳩ノ年齢並ニ其ノ素質ノ優劣、新舊鳩舎間ノ距離、其ノ構造

差異飼育者、技術等ニヨリ自ラ閉置日数ヲ異ニシテ之カ完成ニ難易
アリ一收ニ幼鳩、馴致シ易ク成鳩ハ難シ最少馴致ノ日数ハ（生後二三月
ノ雛鳩）ハ西日ニテ充分ナルコトアリ又遅キモハ（二歳以上ノ優秀鳩）数
ヶ月ヲ要スルコトアリ

馴致、松設ハ空腹時ヲ利用シテ鳩ト人トノ親和ヲ計ルニアリ授言スレ
ハ馴致ハ成否ハ空腹利用ノ巧拙ニ存スト云フモ過言ナラス、單ニ鳩ノ靜肅
ナルヲ見テ馴致ナレトスルハ早計ナリ真ノ馴致ハ鳩舎並ニ其ノ附近ノ
地物ニ對シ全ク不安ノ念ヲ去リ且ツ鳩ト人トノ親和ヲ得テ始メテ完全
ナルモノナリ馴致ハ彼ノ建築ニ於ケル土名ニ等シク最も大切ナルモノニシテ其
ノ未ダ成ラサルニ鳩ヲ舎外ニ出スコトアラナカ幼鳩ハ之ヲ呼ビ込ムニ難ク
成鳩ハ忽チニシテ高空ニ舞ヒ上リ暫ク附近ヲ巡回飛翔シタル後何レニ
カ其ノ邊リ没シ獨リ飼鳩者ノミ空ヲ眺メテ茫然タラン

第二節 出合

馴致完成ト認メタルトキハ出合ヲ行フヘシ出合ハ單ニ鴈ヲ室外ニ出ス
ノ意味ニシテ飛翔ヲ強要セス其ノ目的ハ馴致ノ試験ヲ主トシ兼ネテ鴈
舍附近ノ地切ヲ認識セシメ且リ出合呼込等ノ豫備調教ヲナスニテ
政ニ第一回出合ニアリテハ全鴈同時ニ出スヲ避テ先數羽ヲ出シテ情況ヲ
窺ヒ漸次總鴈ニ及ボスモノトス 最初ノ出合ハ成可タ刻ニ近キ空腹時ニ
於テ行フヲ可トス

第三節 舍外飛翔

出合及呼込ノ略完成シタルトキハ飛翔力ノ程度ニ應ジ飛翔ヲ強要ス
舍外飛翔ハ放鴈訓練ノ準備操縦ニシテ之ニヨリ地切ヲ精確ニ認識シ
シメ飛翔力ヲ涵養シ入舍ニ習熟シ體力ノ鍛練ヲナス等極メテ緊要ナ
ル日施行事タリ但シコノ舍外飛翔ノミニテハ決シテ歸巢性(方向感)ヲ勵
發養成スルモノニアラサルヲ銘記スヘシ本訓練ハ母鴈舍前体力其ノ他情

況ニ應シ適宜時間ヲ按配シテ短キハ十分程度ヨリ長ハ三時間餘ニ至
 リテ連續飛翔セシメ空腹ヲ利用シテ哨笛其他ノ音響ヲ用ヒテ聴令
 時込ム習慣ヲ作り全鳩ノ入舎ヲ得テ給餌ヲ行フモノトス飛翔中
 ノ鳩力附近ノ建物樹木等ニ接アリ又、地上ニ下ル等ノコトハ絶対に禁
 物トスコトヲ惡習慣ヲ其ノ儘ニ放置スルコトハ放鳩ノ際金中着陸ノ巨聲
 生スルヲ以テテリ、舎外飛翔由、鳩ハ固キ集團ヲ作り時込ノ令
 下ルコト能ク聴令上空ヲ旋回飛翔ヲセシ哨笛一聲ヲ通サズハ舎内ヲ知ラ
 調教シ置ノヲ要ス

第四節 放鳩訓練

放鳩訓練ハ前諸項ノ調教(訓練)ト相俟テ歸巢能力及体力ヲ達
 成セシムヘキ最も重要ナル事項ニシテ且、コトニ依リ不良鳩ノ淘汰ヲ行ハレ
 自ラ子孫ニ優良性ヲ傳フルモノナリ

放鳩訓練ハ馴致完成セル鳩ヲ豫定地矣ニ輸送シテ解放スルコトニ
ヨリ目的ヲ達シ得ヘキモ訓練案畫ノ良否地形ノ利用管理法ノ
適否並氣象等ハ少ナカラス成績ニ影響ヲ及ボスモノナリ

尚コノ際放鳩成績表ノ計算作成ハ可成リ煩雜ニシテ勞力ヲ要ス
ルモ極メテ重要ナルヲ以テ掌鳩者タルモノハ訓練後直ニ之ヲ整理調
製シ置クヲ要ス

放鳩訓練ヲ分ナテ基礎訓練 延伸訓練 保能訓練トス

一、基礎訓練

鳩舎ヲ中心トシテ半徑ニ十町至四十軒附近圈内ノ放鳩訓練ニシテ
東西南北各方向ヨリ各四放鳩ヲナシ所定ノ距離ニ至リテ完了ス
ルモノトス

二、延伸訓練

基礎訓練ヲ完了セル鳩ニ對シテ更ニ必要ノ方向ニ對シ躍進シテ

放鳩訓練ヲ行フヲ云フ

三 保能訓練

歸巢能力ヲ確實ニ保持セシムルタメ既往訓練範圍内ニ於テ更ニ復習訓練ヲ行フヲ云フ。

四 放鳩法

介何放鳩（一羽放鳩）

放鳩法

集團放鳩

小集團（二羽乃至十羽放鳩）

中集團（十羽乃至三十羽放鳩）

大集團（三十羽以上放鳩）

五 放鳩躍進度

概ネ凡ノ標準ニ據リ漸次躍進ス

1 km	2	3	5	10	20	35	50	75
100	150	220	300	400	500	600		

1327

六、各個放鳩ト集團放鳩ノ利点ト缺点

放鳩法	利点	缺点
各個放鳩	一、方向判定其ノ他ニ對シ他鳩ニ頼ルノ信念ヲ抱カシメス從テ實用通信ノ場合ニ有利確實ナリ 二、害鳥ノ襲撃ニ依ル被害率小	一、多数放鳩ノ場合夥シキ時間ヲ要ス 二、距離躍進度小從テ同一距離ニ對シ訓練回数ヲ増ス 三、失踪率大 四、集團放鳩ニ比シ一般ニ成績劣ル
集團放鳩	一、放鳩時間ノ節約 二、距離躍進度大從テ同一距離ニ對シ訓練回数ヲ節約スルヲ得 三、失踪率小 四、各個放鳩ニ比シ一般ニ成績良好	一、他鳩ニ頼ルノ信念ヲ抱カシメ從テ兩放鳩ノ場合確實性低下ス 二、害鳥ノ襲撃ニ依ル被害率大
備考	石ノ如ク各個放鳩ト集團放鳩トハ利害全ク相反シ其ノ何レヲ選定スヘキカハ俄ニ限定シ難キモ要スルニ距離、目的地勢、經費、時間、鳩數、鳩舎ノ性能及氣象等ノ情况ニ依リ決定スヘキモノニシテ、初期訓練ニハ努メテ各個放鳩ニヨリ訓練スルヲ可トス	

第五節 陸上固定鳩舎ノ訓練

第六節

夜間鳩舎ノ訓練

陸上固定鳩舎ハ各種鳩舎(車)中ノ基礎鳩舎ニシテ之カ訓練法ハ最も
 簡單容易ナリ其方法ハ鳩舎ニ馴致サレタル鳩ヲ前項記述ノ基礎訓
 練ヨリ進ンテ延伸訓練ヲ行フモノニシテ遠距離ノ訓練ヲ行フモノニテ
 基礎訓練終了後或ル決定方向ニ對シ躍進スルヲ例トス又訓練終了後ト
 雖モ必要ニ應ジ保能訓練ヲナシ十二月中旬頃ヨリ蕃殖準備ニ移ルモノトス

本訓練ハ高等鳩術ニ屬シ其方法ハ昼間固定鳩舎ノ如ク簡單ナラス
 蓋シ現在ハ鳩ハ暗夜飛翔ニ耐ユル視力ヲ有スルモノニアラスシテ鳩特有ノ
 方向感ヲ勵發シ且ツ夜間飛翔ニ對スル怖氣ヲ除去シ以テ夜間飛翔歸
 巢ノ習慣性ヲ作爲スルモノナルヲ以テ一度其方法ヲ誤ランカ徒ラニ鳩ニ勞
 苦ヲ強ヒ過度ノ失踪ヲ招キ遂ニ目的ヲ達成シ得サルコトアリ注意ヲ
 要ス本訓練ニ際シテハ特ニ鳩ノ健康上缺クヘカラサル日光ト休養
 トヲ適度ニ與フル様細心ノ注意ヲ拂フヲ要シ且ツ本訓練ニ於テハ特

ニ昼夜不斷ノ管理調教ヲ要スルヲ以テ從事者ハ常ニ獻身的努力ヲ惜シマサルノ覺悟アルヲ要ス 本訓練ニ使用スル鳩舎ハ夜間鳩舎トシテ特別ノ設備ヲ施セルモノヲ用ヒ且ツ鳩舎附近ノ障害物(樹木 架空線電燈等)ハ晝間鳩舎ニ比シ一層除去スルヲ要ス 本訓練ハ大体三期ニ分チテ行フ

第一期 基礎訓練(暮曉飛翔訓練)

春季ニ於テ前記ノ夜間設備ヲ施セル鳩舎ニ幼鳩(生後一ヶ月乃至三ヶ月ノモノヲ最モ適當トスソレ以上ノモノニテモ二歳鳩迄ハ能ク夜間鳩ヲラシメ得ルモ馴致竝ニ夜翔性附與ニ少ナカラサル日時ヲ要スルヲ以テ適良ナラス三歳鳩以上ノモノハ僅カニ可能性ヲ有スルノミ)中ヨリ特に健康ナルモノヲ選ミテ移殖シ馴致完成セハ飛翔力ニ應分シテ規定ノ舎外飛翔ヲ課シ且ツ朝夕ノ舎外飛翔ヲ漸進的ニ日当前及日没後ニ及ホシ移殖後約一ヶ月ニシテ暗夜ニ於テモ全ク團結シテ四十分間

以上能ク鳩舎上空ヲ旋回飛翔ヲナスニ至リテ完了ス又コノ期間ニ於テ
周囲少カクモ十軒以上ノ昼間放鳩訓練ヲ行フモノトス

第二期 夜間放鳩訓練

第一期基礎訓練完了後引續キ行フ訓練ニシテ其方法夜間ニ
於ケル方向判定並ニ歸還飛翔ヲ容易ナラシメ以テ翌朝歸舎ノ悪習慣
ヲ附セサランカタメ先ツ一軒附近ノ極メテ近距離ヨリ放鳩ヲ開始シ且ツ初期
訓練ニアリテハ努メテ夜間放鳩豫定地点又ハ其附近ニ於テ昼間放
鳩ヲナシタ刻再ヒ鳩ヲ豫定地点ニ輸送シテ夜間放鳩ヲ行ヒ斯クシテ
二十軒附近ノ周囲ヨリ放鳩終ラハ必要ニ應ジ決定方向ニ對シ距離ノ躍
進ヲナスト共ニ漸次放鳩時刻ヲモ変動シ遂ニ深更ニ及ホスモノトス又
此ノ期間ニ於ケル夜間舎外飛翔ハ放鳩訓練ニ順應シテ漸次其ノ
歩ヲ進メ且ツ昼間舎外飛翔ニ於テモ能ク連續二時間以上飛翔セ
シムルニ至リ茲ニ始メテ其ノ目的ヲ達成スルニ至ルモノナリ

本訓練ニ於ケル放鳩躍進度ハ毎回成績ヲ調査シテ適宜分配
 スヘキモノナレトモ大凡昼間固定鳩舎ニ於ケルモノ、7月附近ニ縮少スルヲ
 適當トス不適鳩ノ淘汰ハ成ルヘク初期ニ於テ之ヲ行ヒ且ツ本期ヨリ
 特ニ設備シテル明暗裝置ニ依リ日中ノ一部(季節並ニ氣温、高低ニヨリ
 其ノ時機ヲ異ニシ温暖ノ際ハ概ネ正午前後トシ日中ノ約1/3ヲ酷暑期間ハ
 朝夕ノ涼シキ時機ヲ選ミテ日中ノ約1/4乃至1/5)ヲ暗黒トナシ以テ夜間ニ
 對スル擬習ヲナスト共ニ兼ネテ鳩ノ休養ヲササシム
 夜間放鳩ノ際ハ努メテ灯火並障害物ヲ避ケ且ツ展望良好ナル位
 置ヲ選ミ鳩ヲ掴ミテ上方ニ放揚スルヲ可トス
 航空機上ニ於ケル夜間放鳩ニ尾翼緊張線等ニ對シ一段ノ注意ヲ
 要ス

夜間甲地ノ放鳩ヲ終リ次テ乙地ヘト躍進スルニ當リ昼夜二回ノ放鳩
 ヲ行フコトヲ不便トスレトモ或ハ昼夜續行飛翔ノ目的ヲ以テ特ニ此ノ種

訓練ヲ施行スル場合ハ乙地ニ於ケル昼間ノ放鳩時刻ハ概不甲地
 附近迄飛翔シタルトキ日没トナル如クスルカ若クハ未明放鳩トスル如
 ク適宜放鳩時刻ヲ按配スルコト肝要ナリ蓋シ夜間鳩ト雖モ夜間
 放鳩ノミニヨル距離ノ躍進ハ徒ラニ過度ノ失踪ヲ生スルノミナルヲ以テナリ
 明暗度(夜ノ明サ暗サ)ト歸巢成績トハ頗ル密接ナル關係ヲ有スルモノ
 ナルハ夜間放鳩ノ際ハ必ズ明暗度ヲ記錄スルヲ要ス明暗度ハ概感
 的ノモノニシテ未ダ計器ヲ使用シテ觀測スルニ至ラサルヲ以テ肉感的ニ
 五等分シ最モ明ルキ夜即チ晴天ノ月夜ヲ一トシ最モ暗キ夜即チ曇
 天以上ノ暗夜ヲ五トシ以下其ノ程度ニ應ジ適宜也^{五分}ヲ實驗ニ徵スル
 ニ夜間ノ歸巢成績ハ暗夜ニ於テハ遙カニ月夜ノソレニ劣ルコト明カナリ
 故ニ初期ニ於ケル深夜放鳩ハ先以テ月夜ニ於テ行ヒ次第ニ暗夜ニ及不
 ス如ク行フヲ可トス

飼糧配合ハ三食制ニ依リ第一期基礎訓練中ハ朝昼夕等分ニ第

二期以後ニテリテハ朝昼ハ各日量ノ3/10宛トシ夜間ハ4/10トス

第三期繁殖並ニ保能訓練

第二期訓練ハ大凡十月ヲ以テヤテ終リ十一月ニ至テハ繁殖準備ニ移リ他
鳩舎ニ先シテ交配ヲ行ヒ育雛ハ一番仔ノ巢立ヲ以テ切上クルヲ可ク
己夜間鳩ハ昼夜共ニ活動ヲ強コラレ昼間鳩ニ比シ負荷一層大ナルヲ以テ
之ヲ緩和策ニシテ繁殖ヲ制限シ以テ繁殖ヨリ來ル疲勞ヲ輕減セントスル
カ故ナリ繁殖期間ニ於テモ若來得ル限り昼夜舎外飛翔並ニ放鳩訓
練ヲ課シ以テ能力保持ニ努ムルモノトス

(註) 淘汰ニ對スル鳩ノ補充ハ幼鳩ハ訓練期間隨時補充シ得ルモ訓練ノ煩雜ヲ避

ケ早過シ整一ヲ期スルヲメ成ルヘク初期ニ於テ之ヲ行ヒ成鳩ニ歲ハ交配時ヲ利

用シテ補充スルヲ最モ適切ナリトス夜間鳩ヲシテ持ニ早期ニ交配ヲ行フ所以ハ

繁殖ヲ早メ而シテ翌年度ノ訓練開始時迄ニ雛ノ離乳ト親鳩ノ体力恢復トヲ期

セシカクナリ故ニ飼育地ノ氣候如何ヨリテハ早繁殖時機ニ差異アルヲ記憶スルヲ要ス

元

22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10
二	一	九	八	七	六	五	四	三	二	五	三	二
17	16	9	8	7	6	5	4	3	2	四月 1	29	28
飛翔 至日出十分前	舍外 自日出十分前		飛翔 至日出十分前	舍外 自日出十分前				飛翔 至日出十分前	舍外 自日出十分前			
飛翔 四十分開	舍外 四十分開		飛翔 四十分開	舍外 四十分開				飛翔 三十分開	舍外 飛翔			
飛翔 至日没十分後	舍外 自日没十分後		飛翔 至日没十分後	舍外 自日没十分後				飛翔 至日没十分後	舍外 自日没十分後			
日出 一八四三	日没 一八四三		日出 一八四三	日没 一八四三				日出 一八四三	日没 一八四三			

第二期 放鳩訓練

五	月
下	旬
舍外自日出一時前 飛翔至日出十分前	朝
舍外飛翔五十分間 一料乃至十料放鳩	昼
舍外飛翔 自日沒時至十分後 五十分間 一料乃至十料放鳩	夜
飼糧朝 $\frac{7}{10}$ 昼 $\frac{3}{10}$ 夜 $\frac{7}{10}$ 早約13時室内閉 トス	摘 要

30	29	28	27	26	25	24	23
元	八	七	六	五	四	三	三
19	18	17	16	15	14	13	12
舍外自日出一時前 飛翔至日出十分前							
舍外 飛翔五十分間 飼回十料乃至十 五料放鳩						飼回五料乃至七 料放鳩	
舍外自日沒至十分 飛翔四十分間							
日没 四三八 日没 一八三八 日没 一八四〇 日没 一八三五						不適鳩ニ注意	

六	六	六	七	八	九	中	下
上	中	下	上	中	上	中	下
舍外自星一時間五分前 飛翔 一時間	舍外飛翔一時間 十時乃至三十時放鳩	舍外飛翔一時間 自星一時間五分後 一時間 全上放鳩	舍外飛翔 自星一時間五分 一時間 全上放鳩	舍外自星一時間四分前 飛翔 一時間 自星一時間五分 一時間 全上放鳩	舍外自星一時間乃至 飛翔 一時間 自星一時間五分 一時間 全上放鳩	舍外飛翔 自星一時間乃至 一時間 全上放鳩	舍外 自星一時間乃至三時間 飛翔 前
不適鳩淘汰 決定方向ニ訓練							換羽ニ注意シテ 訓練ヲ斟酌ス

第三期 交配蕃殖並保能訓練				第一期			
年月旬	作業	摘要	交配準備	上	中	下	上
三 一 二	上中下 繁殖	事情、許久限、舍外飛翔並保能訓練施行	雌雄分離	舍外時刻不定 飛翔五分乃至二時間	舍外飛翔 一時間乃至二時間 百千料乃至二百料 放鳩	舍外、日没一時間乃至 飛翔、四時間後 五分乃至百千料放鳩	十分乃至一時間 三分間
二 一 二	中	交配	雄	舍外時刻不定 飛翔五分乃至二時間	舍外飛翔 一時間乃至二時間 百千料乃至二百料 放鳩	舍外、日没一時間乃至 飛翔、四時間後 五分乃至百千料放鳩	十分乃至一時間 三分間
三 一 二	下	交配	雌	舍外時刻不定 飛翔五分乃至二時間	舍外飛翔 一時間乃至二時間 百千料乃至二百料 放鳩	舍外、日没一時間乃至 飛翔、四時間後 五分乃至百千料放鳩	十分乃至一時間 三分間
三 一 二	上中下	繁殖	雄	舍外時刻不定 飛翔五分乃至二時間	舍外飛翔 一時間乃至二時間 百千料乃至二百料 放鳩	舍外、日没一時間乃至 飛翔、四時間後 五分乃至百千料放鳩	十分乃至一時間 三分間
三 一 二	上中下	繁殖	雌	舍外時刻不定 飛翔五分乃至二時間	舍外飛翔 一時間乃至二時間 百千料乃至二百料 放鳩	舍外、日没一時間乃至 飛翔、四時間後 五分乃至百千料放鳩	十分乃至一時間 三分間
三 一 二	上中下	繁殖	雄	舍外時刻不定 飛翔五分乃至二時間	舍外飛翔 一時間乃至二時間 百千料乃至二百料 放鳩	舍外、日没一時間乃至 飛翔、四時間後 五分乃至百千料放鳩	十分乃至一時間 三分間
三 一 二	上中下	繁殖	雌	舍外時刻不定 飛翔五分乃至二時間	舍外飛翔 一時間乃至二時間 百千料乃至二百料 放鳩	舍外、日没一時間乃至 飛翔、四時間後 五分乃至百千料放鳩	十分乃至一時間 三分間
三 一 二	上中下	繁殖	雄	舍外時刻不定 飛翔五分乃至二時間	舍外飛翔 一時間乃至二時間 百千料乃至二百料 放鳩	舍外、日没一時間乃至 飛翔、四時間後 五分乃至百千料放鳩	十分乃至一時間 三分間
三 一 二	上中下	繁殖	雌	舍外時刻不定 飛翔五分乃至二時間	舍外飛翔 一時間乃至二時間 百千料乃至二百料 放鳩	舍外、日没一時間乃至 飛翔、四時間後 五分乃至百千料放鳩	十分乃至一時間 三分間

第七節 艦上錨舎ノ訓練

本訓練ハ錨舎搭載艦(之ヲ錨舎艦ト稱ス)ノ行動繁閑ニ依リ自ラ差
異アルモ要ハ錨ヲシテ自艦ノ艦形ヲ熟知セシムルト共ニ移動性ヲ保有セ
シムルニアリコレカタメニハ錨舎艦カ頻繁ニ泊地変更スルヲ良シトスルモコハ
事實上難事ナルヲ以テ出来得ル限り艦ノ行動ヲ利用シテ訓練ヲ施
行スルヲ要ス

一 泊地ニ於ケル訓練

陸上固定錨舎ノ訓練ニ準ス但シ生地ニ碇泊スル場合ハ港前ヨリ全錨
ヲ努メテ展望台上ニ出シ附近ノ地物ヲ觀察セシメ以テ馴致ニ要スル時間
ヲナルヘク少ナラシムルヲ要ス

尚訓練ヲ増スニ從ヒ入港前二三哩ノ地点ヨリ舎外飛翔ヲ課シ航行中ノ

艦ニ追隨飛翔セシメ入港後錨後直ニ呼込ハ方法ヲ採ル時ハ泊地ニ對スル馴致ヲ一層速クナラシメ得ルモノナリ

二 航行中ノ訓練

本訓練ノ主旨ハ鵞ヲシテ自艦ノ移動シツアルヲ認識セシメ以テ航行中ノ鵞舍艦ニ對スル歸巢性ヲ涵養スルニテリ其ノ方法トシテ先ツ航行中ノ舍外飛翔ヲ完成シ進ニテ航行中ノ鵞舍艦ニ對シ放鵞訓練ヲ行フニ至ルモノナリ

航行中ノ舍外飛翔ハ低速ヨリシヲ行ヒ且ツ一時ニ多數ノ鵞ヲ出スル避ケ最初ハ先ツ數羽ノ鵞ニヨリテシヲ試ミ漸次鵞數ヲ増加スル如クスルヲ要ス然ラサレハ意外ノ失策ヲ招クコトナリ殊ニ地ニ飛ク旋泊シタル後出港シタル場合ノ如キ特ニ然リトス

航行中ノ放鵞訓練ハ他艦又ハ陸上等ヨリ放鵞シテ以テ鵞舍艦ニ歸還セシムルモノナルモ訓練可能距離ハ甚タ小ニシテ未タ鵞舍艦ヲ認

識シ得ル國內ヨリ出ルコト難シ要スレニ鳩舎艦航行中ノ軍鳩通信成
績ハ鳩舎艦ノ速カニ西有ノ距離ニ深キ關係ヲ有スルコト勿論ナルトモ實
驗上勞多クシテ効少キヲ憾トス

第節 移動鳩舎(車) 訓練

本訓練ハ鳩ニ移動法ヲ興ヘ以テ土地ニ移動シタルトキ最短時間ニテ到
致ヲ了シ直ニ通信ノ任務ニ服シ得ルヲ目的トス

本訓練ハ普通幼鳩(巢立后)經過教成ルベシ僅ルナルモノヲ以テスレハ馴致容
易ナリ)ヲ移動シテ行ヒ馴致ト相俟ソテ鳩ヲシテ鳩舎(車)ノ一地ニ定着セサル

コトヲ自覺セシムルコト緊要ニシテ大凡タ認要領ニ準據シテ實施スルモノナ
リ

(1) 前記幼鳩移殖後速カニ鳩舎(車)ノ移動ヲ行ヒ且ツ頻繁ニコレヲ反覆ス

(2) 移動ハ先ツ鳩舎(車)ノ旋回(三三回)ヨリ始メ逐次移動距離ヲ増加ス

(3) 移動后ハ直ニ馴致ノ務メ第一面出舎ノ同時ニ全鳩ヲ出スコトナリ先ツ數羽ヲ出シ

テ情勢ヲ窺ヒ漸次總塲ニ及ラスモトス

(二) 一地ニ停滯スル日数ハ馴致並ニ放塲訓練等ニ要スル最小限度トス

(ホ) 舍外飛翔ヲ勵行シ放塲距離ノ増加ト共ニ逐次飛翔時間ヲ増ス

(ハ) 放塲訓練ハ体力ノ發達ニ伴ヒ其距離ヲ増加シ少ナクモ二十杆以上トス

要ニ應ジ百杆附近ニ達スルモトス

(イ) 本訓練終了後一地ニ永ク停滯スルトキハ勿クニシテ固着性ヲ生スルヲ以テ避

宜塲舍(車)ノ移動ヲナスコト肝要ナリ

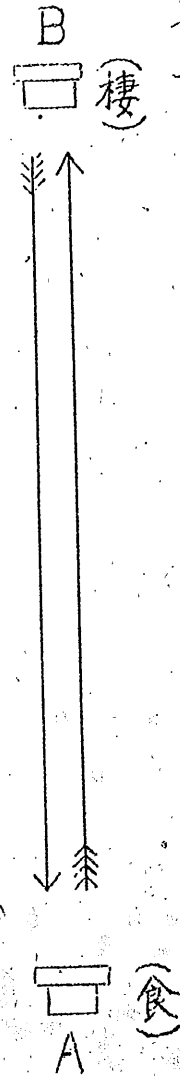
(註) 移動訓練ヲ終了セル塲ヲ體上塲舍ニ移殖スルトキハ訓練上ノ便益多シ

第九節 往復通信塲舍ノ訓練

往復通信ハ塲ヲシテ棲息所、食事所トシテ別ニシ日々棲息及採食ノ爲メ
 兩所間ヲ往復セシメヤニ依リ定期通信ヲ行フ特種ノ方法ニシテ固定ノ往
 復通信ト移動ノ往復通信トノ二種ナリ。固定ノ往復通信ハ普通一般ニ待

ハル、通信法ニシテ其方法簡單ナルモ移動ノ往復通信ハ豫メ移動訓練ヲ施セル鵠ヲ用ヒ且ツ絶ヘス鵠舎ハ移動ヲ行フヲ以テ方法モ又複雑ナリ
 本訓練ハ主トシテ鵠ノ性慾及食慾ヲ利用シテ鵠群ヲ夫々兩鵠舎ニ吸着スルモノナレハ之ニ使用スル鵠ハ配偶關係成立セルモノヲ以テスレハ作業上甚タ有利ナリ而シテ棲息鵠舎ニアリテハ雌雄互ニ同棲シ採食ハ各別ニ食事鵠舎ニ於テ行ハシメ曰々之ヲ反復スルノ習慣ヲ取ラシムルモノナリ以下固定ノ往復通信訓練ニ就キ其概畧ヲ述フレハ

A 法 其 一



舊來ノ鵠舎(A)ヲ食事鵠舎トシ往復通信ノタメ新タニ設ケタル鵠舎(B)ヲ棲息鵠舎トス

(注意)凡シ棲息鵠舎ハ巢房其他棲息ニ必要ナル設備ヲナシ且ツ飲水ヲ準

備スルモ一切採食ヲナサシメス又食事鳩舎ハ飼糧ヲ準備スル外巢

房其他之ニ類スル設備ヲナサス

棲息鳩舎ト食事鳩舎トハ同型若クハ之ニ類似ノモノヲ以テ充ツルト

キハ訓練上ノ便益多シ

コノ方法ハ鳩ノ愛情食欲ヲ對照シ其勝レル處ヲ利用シテ新鳩舎ニ鳩ヲ

引キ着ケントスルモノニシテ鳩ハ季節及雌雄ニヨリ其ノ程度ニ差異アルモ雌雄

共ニ愛情ハ食欲ニ勝ルモノナルヲ以テ管理其他ニ支障ナキ限りコノ方法ニ

據ルトキハ馴致ニ要スル日数ヲ節約シ作業進捗上有利ナリ

西地鳩舎ノ準備完成セハ大凡次ノ日程ニヨリ訓練ヲ開始ス

第一日……午前八時Aニ飼育セル鳩ヲBニ運搬收容ス

但シ西地間ノ距離遠隔セルトキハBニ收容前豫メAB間ヲ訓

練園内ニ收メ置クヲ要ス又鳩ノ年齢其他ノ關係ニヨリBニ收

容後其後馴致ニ着手シ其完成ヲ俟ツテ訓練ヲ開始スルモ可ナリ

第百 午前八時Bヨリ雄(雌)鳩ノミヲ放ツ鳩ハ直チニAニ歸來シ飼糧

ノミヲ與ヘ約一時間休憩後Bニ運搬入舎セシム午後他ノ一方
同(方法)ヨリ訓練ヲ課ス

鳩ヲ運搬入舎セシムトキハ努メテ「羽宛」ヲ「フ」ヨリ潛入セシムル可キ

第三日以後 第二日ノ要領ヨリ訓練ヲ繼續シ漸次鳩ノBニ馴ルニ從ヒ

Aヨリ運搬セル鳩ハBノ到着臺上ニ放ツテ自ラ入舎セシム入舎セ

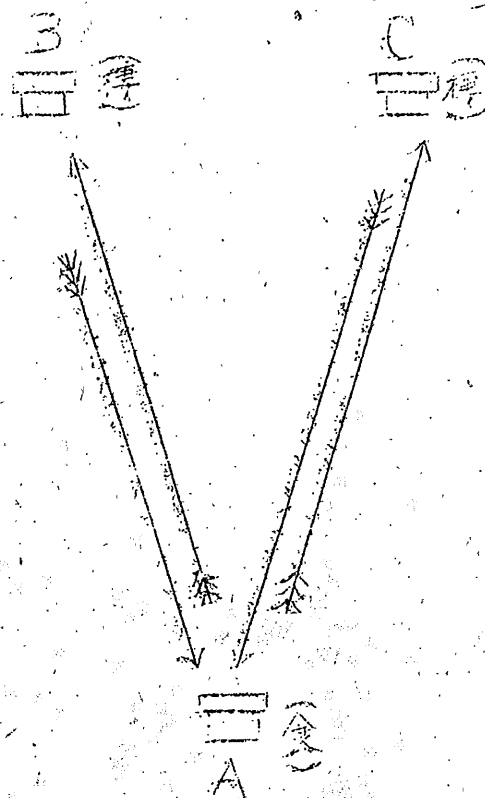
スシテAニ歸來スルモアラハ再ヒ運搬入舎セシムルカ又ハ輕キ數回ヨリ

ノ意味ニテ若干時間籠内ニ幽閉スルモ可ナリ漸次Aヨリノ運搬

距離ヲ減シテ放鳩シ遂ニAヨリ放チタル鳩ハ一直線ニBニ飛來入

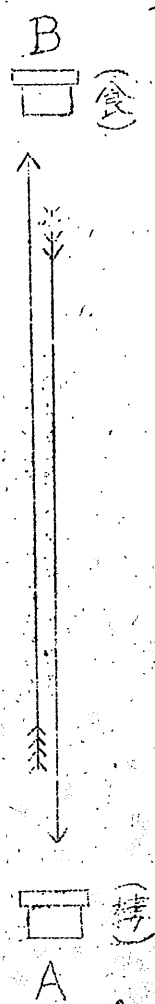
舎スルニ至リヤヲ反復シテ整然往復通信ヲ完成スルニ至ルモノナリ

A 法 其二

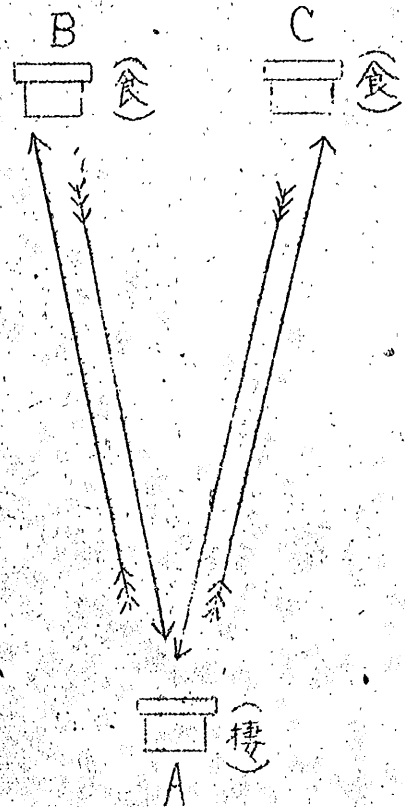


A 飼育を賜り B C 二連搬入舎せしめ、後前項ノ要領ニ據リ訓練
課スコノ方法ハ單ニ B C (又ハ B C D) ニ賜リ分割往復せしめ、外全ノ前
ニ同シ

B 法 其一



B 法 其ノ二



舊來ノ鳩舎ヲ其終棲息鳩舎トシ往復通信ノ爲新タニ設ケタル鳩舎ヲ
食事鳩舎トス

コノ方法ハAヨリ放テタル鳩ヲBニ引着クルコトA法ニ比シ稍々困難ニ
シテ從ツテ完成ニ時日ヲ要スルモ鳩舎管理其他ノ必要上本法ニ依
リ實施スルヲ便利トスルコトアリ

Aニ飼育セル鳩ノ内雌(雄)鳩ノミヲB(B.C但シB雌ナルトキハCハ雄)ニ運
搬直チニ馴致ニ着手シ其完成ヲ俟テ往復通信ニ適應スル如ク舎外飛
翔並給餌ヲ行ヒ次ニ放鳩訓練ニ移ルモノトス

放鳩訓練ハA、B、(A、B、C)共同時ニ夫々對鳩舎ニ向テ行ヒ最
後ニ兩鳩舎ノ位置ヨリ放鳩シ良好ナル成績ヲ得タルトキハ概
日程ニ移ルモノトス

第一日 午前八時A、鳩ヲB、(B、C)ニ運搬入舎セシメ其落チ着キタルト
キ徐ニ給餌ヲナス

午後三時第二回ノ給餌ヲナシ雌雄共ニB、(B、C)ニ宿ス

第二日 午前八時B、(B、C)ニ於テ給餌ヲナス

午前九時全鳩ヲ解放ス、Aニ馴致サレタル鳩ハ直チニAニ歸來ス
ルモ他ハB、(B、C)ニ残留ス

B、(B、C)ニ残留セル鳩ヲAニ運搬ス

鳩ノ全部ハAニ集マリ雌雄相會シ夫々巢房(巢房ハ雌雄ノ不仲
留守鳩能ク之ヲ守ル)

ニ於テ久シ振リニテ同棲ノ樂ヲ享ク但シAニ於テ給餌ヲナサス

第三日 午前八時A、雄(雌)ノミヲ巢房ニ閉シ他ノ一方ヲ解放ス

B(B又C)ニ馴致セラレタル鳩ハ直ニB(B又C)ニ趣キ他ハ

Aニ入舎スルヲ以テ之ヲB(B又C)ニ運搬ス

午前九時Aノ殘鳩全部ヲ解放ス

同田ト同様

午後三時B(B又C)ニ於テ給餌ヲナシ此夜ハ此處ニ宿ス

第四日 午前八時B(B又C)ニ於テ給餌ヲナス

午前九時全部ノ鳩ヲ解放スAニ馴致セラレタル鳩ハ直ニAニ歸

來ノ同時ニB(B又C)ニ馴致セラレタル鳩一部ヲ誘導シ

アリB(B又C)ニ殘留セル鳩ハ全部之ヲAニ運搬シ天々雌雄同棲

セシメ此夜ハ此處ニ宿ス

第五日 第三日ニ同シ

第六日 第四日ニ同シ

コノ項ヨリ鳩ハ自由意志ニヨリ漸次對鳩舎ニ向テ出發スルモナ

生スヘシ

之等ニ對シテハ持ニ賣與的ノ飼糧ヲ與フルヲ要ス

其後右ノ要領ニ據リ之ヲ反復繼續スルトキハ漸次訓練セラレ概テ全鳩カ

A—B(A—B—C)間ヲ往復飛翔ヲナスニ至ル訓練中ハ發ヲ肯ヤル

鳩ニ對シテハ適宜矯正シテ整然實施セラルニ至ラハ食事鳩舎内ノ散步臺

ヲ撤去スルモノトス

以上ハ往復通信訓練實施止ニ就キ一ニ例ヲ示シタルニ過キス若シ夫レ

距離ノ遠近ニ數ノ増減雌雄各別ノ往復等之カ應用實施ノ方法ヲ數

ニ示ラハ枚擧ニ遑アラサルヘシ

第七章 使用法

総則

軍鳩使用法ハ一般科學的通信機關ノ夫ト異ナリ極メテ簡單容易ニシ

テ使用鳩ノ性能ヲ知り次ニ示ス心得ヲ會得スルトキハ鳩ニ關スル智識經驗ヲ有セサルモノト雖モ克クセヨ用ヒテ通信ノ目的ヲ達スルヲ得ヘシ

第一節……放鳩ニ就テ

輸送(携行)セル鳩ハ疲勞ノ狀況ヲ顧慮シ適宜安靜ニシテ休息ヲ與ヘ清淨ナル大氣ニ充分浴セシメタル後放鳩スヘシ

放鳩前ニ心地ヨキ空腹狀態ナルヲ良シトスルモ遠距離(百五十料以上)ノ飛翔ヲナスモノアリテハ飲水並小量ノ飼糧(麻實菜種)ヲ與フルヲ可トス

放鳩前ニ鳩ノ健康狀態ヲ診査スヘシ

放鳩ハ成ルヘク展望良好ナル位置ヲ選ミ且ツ努メテ障害物ヲ避クルヲ要ス夜間放鳩ニ於テ殊ニ然リ又電燈下ノ放鳩ハ避クルモノトス

航空機ヨリノ放鳩ニアリテハ尾部緊張線等ヲ避ケテ安全ナル方向(適宜側方又ハ上下方)ニ強ク放擲スヘシ普通型飛行機ニアリテハ鳩ヲ握リ頭

部ヲ下ニ向ケ下方ニ放投スレハ概ネ安全ナリ

昼間鳩ノ放鳩ハ普通日没前ニ充分到達シ得ル如ク時間ヲ見越シテ行フ

モ、トス但シ夜間鳩ハ此ノ限リニアラス鳩ノ速力ハ種々ノ情况ニヨリ一定シ
難テモ平均分速六百乃至八百米ト見ルヲ安全トス

能ク訓練セラレタル鳩ハ小雨、小雪、薄霧等ヲ冒シテ歸還スルコトヲ得ルモ
大雨、大雪、濃霧又ハ風速十五秒以上ノ逆風ノ際ハ緊急ナル場合外放
鳩セサルヲ可トス

第三節

信書ニ就テ

發信ニ際シテハ必ス通信用紙ノ規定ノ欄ニ時刻場所發受信者名發
信番號鳩番號ヲ記註スヘシ(時刻ハ二五時間制トス)信書ハ複寫紙ヲ用ヒ三
通調製シ一通ハ後ノ証査トシテ保存シ他ノ二通ヲ二羽ノ鳩ニ托スルヲ原則
トス信書ニ記註スル文字ハ明瞭ナルヲ要ス

第三節

鳩携行ニ就テ

信書ハ信書筒ニ收メテ鳩ノ脚ニ結着スルヲ原則トスルモ重要ナラサル
 通信ニテリテハ信書ヲ縦ニ折疊ミ其儘鳩ノ脚ニ結着スルコトヲ得但シ雨
 天ノ際ハ必ス信書筒ヲ用ヒ信書ヲ濡ルヲ防止スヘシ又寫真「フィルム」或
 多量ノ通信文ヲ有スルトキハ信書囊ニ收メテ鳩ノ胸部ニ装着スヘシ
 但シ信書囊ハ持種ノ信書携行要具ナルヲ以テ平常之ヲ附着携行ハ
 ルトニ慣ラサレタル鳩ヲ使用スルヲ要ス
 信書ノ結着又ハ信書筒、信書囊ノ装着ハ其緩緊適度ナルコトニ注意スヘシ
 重要通信ニテリハ必ス同一信文ヲ三羽以上ノ鳩ニ托シ若干時刻ヲ異ニシテ
 放鳩シ信書ノ必達ヲ計ルヲ要ス

過通信ハ往復通信ノ場合ノ外鳩ヲ發信地点ニ携行スルヲ要スルヲ以テ
 吾人ハ最モ輕便ニ鳩ヲ携行シ得ル方法ヲ講究セサルヘカラス故ニ輸送要

具ハ容積重量共ニ輕少ナルヲ要スルト共ニ時ニ隱蔽包裝シテ携行スル
モ尚能ク鳩ノ活動力ヲ減退セシメサルヲ要ス然レトモ大氣中ニ呼吸スル
生物トシテモニ對スル適當ノ方法ヲ講セサレハ生理的ニ活動力ヲ減退
シ甚メシキハ窒息セシムルニ至ルコトアリ

鳩携行上ノ注意事項

(一) 鳩籠(過容器)ヲ携行スルトキハ強烈ナル日光ノ直射及濕氣等ヲ避
クル外格別ノ顧慮ヲ要セス

(二) 網袋ニ入レタルトキハ頭部ヲ壓縮セヌコトニ注意スヘシ

(三) 新聞紙又ハ綿布ニテ被覆包裝スルトキハ能ク數時間ノ携行ニ耐ヘ得
ヘキモ使用前約五分間ノ休養ヲ要ス又コノ場合頭部ニ當ル部分ニ數個
ノ孔ヲ穿ツトキハ疲勞防止上甚タ有効ナリ

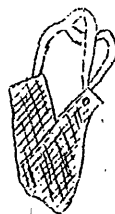
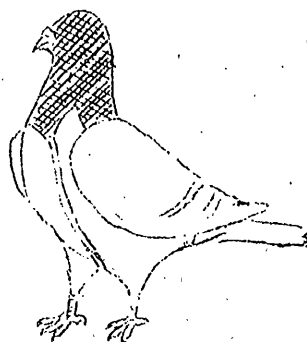
(四) 密閉包裝スルニ當リ麻布モスリン等ノ如キ織目ノ緻密ナルモノアリテハ綿
布ニ比シ大ニ呼吸ヲ障害シ疲勞ヲ増大シ飛翔力ヲ減殺スルモノナリ

(例) 鞆類ニ入レ携行スルハ危険ナリ

(例) 秘密携行ニ際シ布帛ヲ以テ目隠シヲナストキハ概ネ發聲セシメサルコト

ヲ得

目隠



第四節 管理中ノ注意

鳩籠及鳩容器ハ止ムヲ得サル場合ノ外是數以上ノ鳩ヲ收容スヘカラス
又實用通信等ニテ一部ノ鳩ヲ使用シタル場合ハ各籠ニ亘リ鳩ヲ平均
ニ收容シ彼等ヲシテ成ルヘク窮屈ヲ感セシメサルコトニ努ムヘシ

輸送中ハ空氣ノ流通ヲ計リ日光ノ直射(夏季ニ於テ殊ニ然リ)ヲ避ケ且ツ
雨露波浪等ノ侵害ヲ受ケサル處ニ鳩籠ヲ置キ時々飲水(要スル飼糧)ヲ

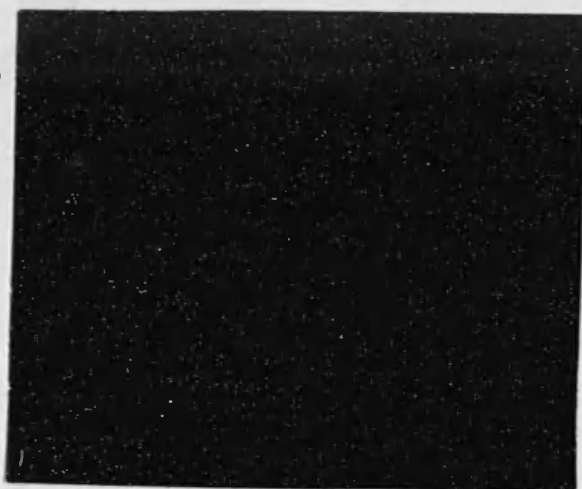
與フヘシ 但シ遠距離ノ輸送ニテリテハ少ナクモ日ニ一回籠内ノ糞ヲ取去ル敷葉
 (敷布)ヲ交換シ以テ翼羽ノ汚損ヲ防クヲ要ス

籠内閉置中ノ鳩ニ對スル給餌ハ規定ノ日量ヨリ稍減シテ行フモノトス
 管理法ノ良否ハ鳩ノ歸巢成績ニ著シキ影響ヲ及ホスコトヲ記憶スル
 ヲ要ス

1358

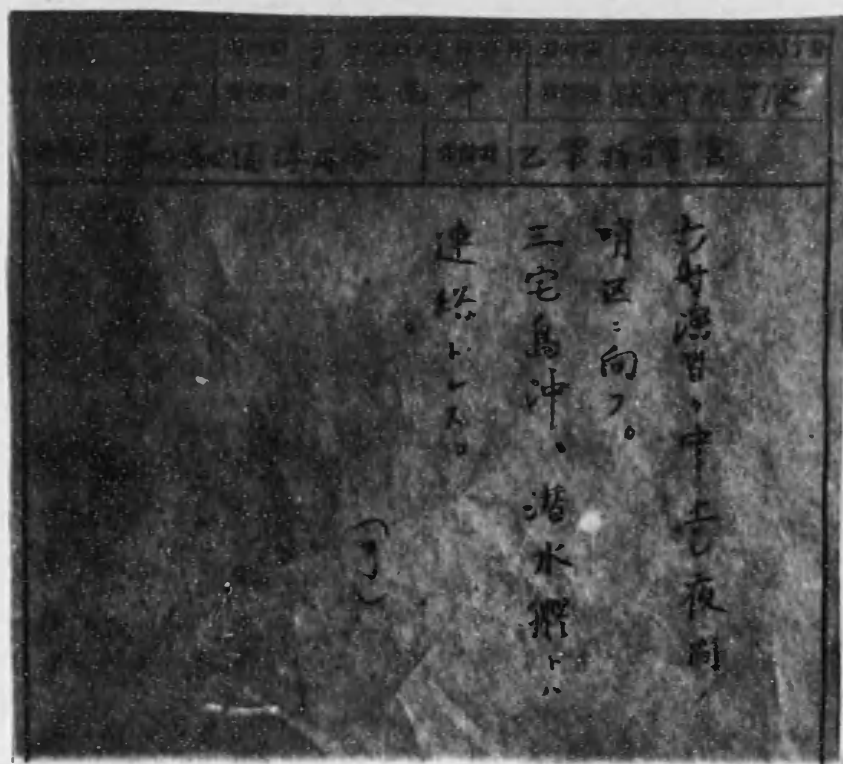
第五節 鳩ノ持ナ方其他ニ關スル寫真

鳩ノ持ナ方



鳩ノ渡シ方





信書(夜間實用通信、複寫)

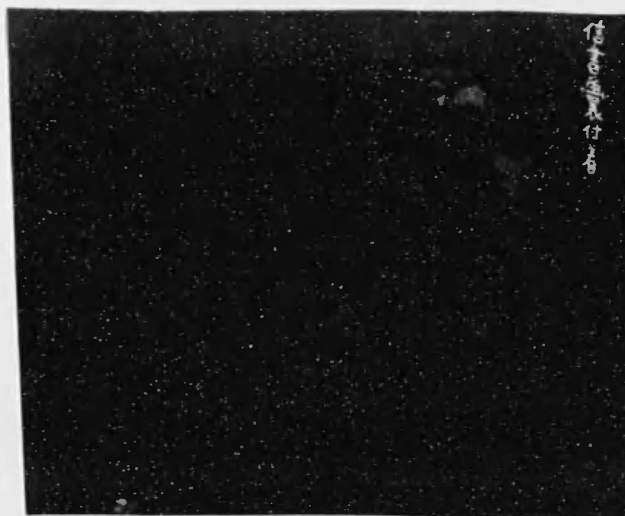


信書結着

1360



信書筒装着



信書筒装着

信書囊装着

1361

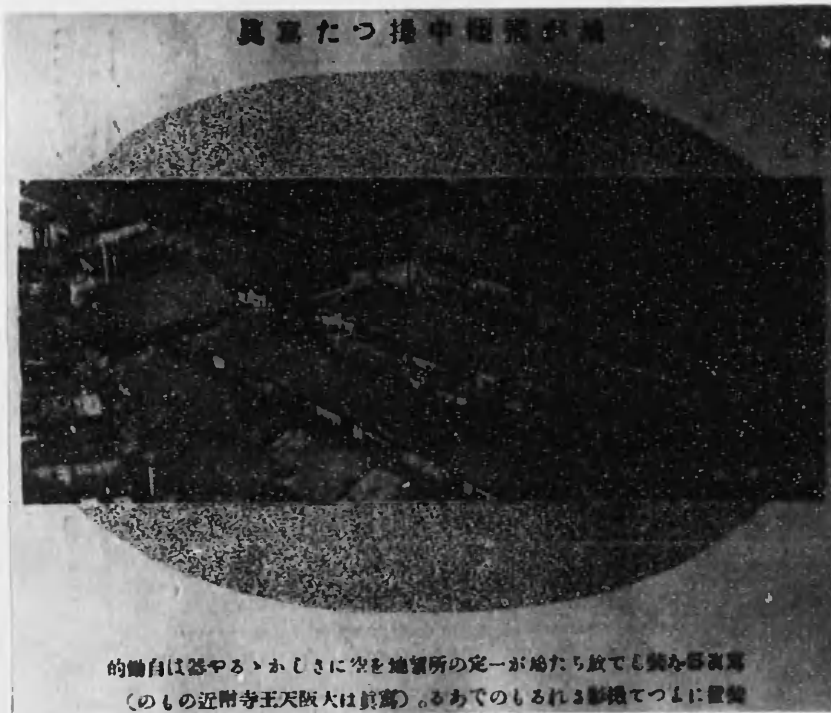


寫真機装着



2. The castle from a nearer distance.
2. Le château vu de plus près.

鳩ノ撮影セルモノ



真京たつ揚中距離の景

的動自は器やる、かしさに空を地質所の定一が給たり放ても興み甚高
(のもの近附寺王天阪大は眞京)。るあでのしるれる影機てつとに置機

全上(大阪民間鳩)

157
二

第八章 蕃殖

第一節 親鳩ノ選擇

自然界ニハ吾人想像タニモ及ハサル靈妙嚴肅ナル法則アリ遺傳ノ如キハ其一ニシテ凡テノ動植物ハ各々其素質ヲ子孫ニ遺傳スルモノナレハ優秀ナル仔鳩ヲ得ル爲メハ遺傳學ノ原則ヲ尊重スルト共ニ豐富ナル經驗造詣ヲ以テ嚴密ニ親鳩タルモノノ系統竝成績ヲ調査シ能ク其ノ資格ヲ備フルモノヲ選擇スルヲ要ス而シテ其最主要ナル條件ハ強壯ナル體軀ヲ有シ歸巢成績常優秀ナル事ナリ

第二節 交配

交配トハ選擇シタル鳩ヲ以テ人爲的ニ新タル配偶關係ヲ作ルヲ云フ

雌雄分離並交配時機

鳩ハ自己ノ巢房ニ對スル占有性ニ富ミ（雄鳩ニ於テ殊ニ強烈ナリ）一雌一雄ノ關係嚴格（雌鳩ニ於テ殊ニ然リ）ナリ故ニ既定ノ巢房並ニ配偶ヲ喪更スルニ相當困難ヲ感スルヲ常トス然モ優秀ナル仔鳩ヲ得ルタメニ萬難ヲ排シテ之ヲ實施セサルハ存ス斯ナル場合雌雄ヲ相異タル鳩室ニ隔離スルトキハ次第ニ從來ノ配偶者ニ對スル愛慕ノ念ヲ去ラシメ性欲ヲ増進シ尙雌鳩ニテハ前配偶者トノ交情關係ヲ消滅シ容易ニ其目的ヲ達スルヲ得ヘシ

雌雄分離ハ冬季間（十一月乃至一月）ニ於テ之ヲ行ヒ翌春（二月）旺盛ナル發情ヲ俟テ一齊ニ交配ヲ行フトキハ作業容易ニシテ且ツ整一ナル良キ仔鳩ヲ得ヘシ

分離期間ハ大凡二十日以上ヲ適當トスルモ鳩舎ノ性質氣候及訓練計畫等ニヨリ自ラ多少差異下リテ種鳩舎ノ如キ蕃殖ヲ主眼ト

スルモノニアリテハ充分ナル分離期間ヲ得ラルヘク且ツ自然ノ妙機ニ適合シ
 テ交配時機ヲ選定シ得ヘシト雖モ一般實用通信ヲ主トスルモノニアリテハ
 長期ニ亘ル分離ハ自ラ通信能率ヲ低減シ又夜間鳩舎ノ如キ極メテ短
 期間ノ蕃殖ヲ余儀オクセラルモノニアリテハ何レモ短時日ノ分離ニ満足セ
 サルヘカラス

交配時機モ亦夫々其要求スル所ニ從ヒ自然ヲ利用シ人爲的ニ之ヲ活
 用シテ實施スルコト肝要ナリ彼ノ温室ニ嚴冬ニ爛熳タル美花ヲ見
 二千年來昼間ニ於テノミ使用シ得ルモノト信シラレ來レル鳩モ人爲的ニ
 活動性ヲ夜間ニ迄延長シタルカ如キハ最モ卑近ナル實例ニシテ以テ參
 考ニ資スヘキナリ

茲ニ注意スヘキハ性欲未發ノ鳩ヲ配合スルモ其効ナク又寒冷甚タシキ時ニ
 ハ孵化雖育共ニ不良ニ陷ルヘキコトコレナリ

二交配上注意スヘキ事項

親鳩ノ体格……過大ナラス過小ナラス且ツ各部ノ均衡ヲ保ツモノヲ良シトス故ニ撰定シタル鳩ニ就キ彼是長短ヲ參酌シテ均衡ヲ保ツシムル如ク配偶鳩ヲ決定スルヲ要ス一般ニ体格ハ母性ノ遺傳ヲ受クルコト多シ

雌雄鑑定……外貌ノミニ依リテ雌雄ヲ鑑定スルコトハ相當ニ經驗ヲ要スルヲ以テ常ニ豫メ鑑定シ置クヲ要ス

年齢……二歳ヨリ八歳位迄ハ親鳩タルノ資格ヲ有スルモ三歳乃至六歳附近ヲ親鳩トシテ最適良トス而シテ老鳩ハ壯鳩ヲ配シ其一方ニ偏スル交配(走ト走幼ト幼)ハ努メテ之ヲ避クルヲ要ス

羽色……同色ニアリテハ濃厚ナルモノヲ良シトスルモ淡色ナルモノヲ親鳩トスル場合ハ之ニ一段濃厚ナルモノヲ配シ成ルヘク仔鳩ノ羽色ヲ濃クスルコトヲ計ルヘシ又色彩ハ調和ヲ計リ甚敷羽色ノ異ナルモノハ成ル可ク交配ヲ避クルヲ要ス

血族交配

良否兩様ノ結果ヲ生スヘキモ努メテ之ヲ避クルヲ要ス

巢房

雄鳩ハ雌鳩ニ比シ巢房ニ對スル占有性ニ富ミ且ツ執着

強烈ナリ故ニ新タル番ノ鳩ヲ巢房内ニ容ルニ當リテハ雄鳩ヲ先
ニスルヲ例トス又此ノ際從來雄鳩ノ占有セシ巢房ヲセニ充ツルトキ
ハ管理上甚タ有利ナリ

巢房ノ位置形狀等ハ蕃殖上(歸巢成績亦然リ)ニ及ボス影響甚大
ナリ故ニ之ヲ能率ノ向上ヲ期セントセハ適當ナル容積(過度ニ大ナル巢
房ハ反テ弊害多シ第五章第三節參照)ヲ有シ極メテ觀察ニ便ナル明
ルキ巢房ヲ用ヒ日光(東南)ニ面シテ配列スルヲ要ス

鳩ハ一見暗キ巢房ヲ好ムカ如ク感セラルコトアルモ衛生竝日常ノ
管理觀察等ノ見地ヨリ暗キ巢房ハ極メテ不利ナルノミナラス
實驗上ノ成績ハ明ルキ巢房ニ及ハサルコト遠シ

又配後ハ巢房ノ扉ヲ閉シ專ラ情況觀察ニ努メ給餌給水ヲ忘ルベカ